

岸本英夫 宗教学者。宗教学の体系化、大学図書館の近代化に献身。10年に及ぶガン闘病の心を率直に語り感動を与えた。

きしもとひでお

日比谷公園・1903 = 兵庫県明石市で、宗教学者岸本能武太の次男に生まれる。

日露戦争終・1905 = 2歳 :

明治天皇没・1912 = 9歳 :

東京高等師範学校附属中学校に入学、美濃部亮吉、諸井三郎らと同級になる。

在学時より兄武夫の影響によりサッカーを始め、

原敬首相暗殺1921 = 18歳 : 卒業して第六高等学校に進学すると、サッカー部に入り、第1回全国高等学校ア式蹴球大会にも出場。

関東大震災・1923 = 20歳 : 六高理科甲類を卒業し、兄武夫も在学していた東京帝国大学へ進学。
在学中はア式蹴球部に入部し、ポジションは武夫がフルバックだったのに対してフォワードであった(武夫は大学卒業後まもなく死去したと伝わる)。

円本時代始・1926 = 23歳 : 東京帝大文学部宗教学科を卒業。

宗教学科教授姉崎正治の長女と結婚。

海軍軍縮条約1930 = 27歳 :

満州事変・1931 = 28歳 : ハーバード大学に留学、

ヨーガストラの宗教学的研究「宗教神秘主義の研究」で文学博士。

帝人疑獄事件1934 = 31歳 : 帰国。東京帝大講師、

日中戦争始・1937 = 34歳 :

第二次大戦始1939 = 36歳 :

日米開戦・1941 = 38歳 :

敗戦・1945 = 42歳 : 助教となり、*戦後、連合国軍最高司令官総司令部民間情報教育局の宗教行政顧問を務め、日本の宗教文化一般について言論活動を行う。

新憲法施行・1947 = 44歳 : 東京大学文学部宗教学宗教史講座教授に昇進。國學院大學日本文化研究所創設に加わる。

極東裁判決・1948 = 45歳 : 「神の問題」編纂、

三大事件・1949 = 46歳 : 「宗教現象の諸相」、

独立回復・1951 = 48歳 : ジョン・デューイ「誰れでも信仰」翻訳、

TV放送始・1953 = 50歳 : スタンフォード大学客員教授としてアメリカ滞在中、頭部にメラノーマ(黒色腫)が発見され、

自衛隊発足・1954 = 51歳 : 「Mahayana Buddhism and Japanese thought」、「現代アメリカの課題」編纂。*入院。以後、10年に及ぶ闘病生活を送りながら、研究を続ける。

国連加盟・1956 = 53歳 : 東大セミナー公開講義「アメリカ研究」

なべ底不況・1957 = 54歳 :

イスタラマ・1958 = 55歳 : 「宗教神秘主義 ヨーガの思想と心理」。_ガン_の摘出手術を受けるが、再発、

美智子妃・1959 = 56歳 : 「宗教と私たち」。_以後、手術を繰り返しながら、

安保闘争・1960 = 57歳 : 東大附属図書館長に就任し、病をおして図書館改革に尽力、

夕々病始・1961 = 58歳 : 「宗教学」。_ニューヨーク市の国連の新図書館の開館式に出席後、ボストン市で黒色腫の権威のハーバード大学医学部教授のブイパトリック博士の診察を受け、明るいい見通しを示唆されて、精神的に落ち着き、しばらく小康状態になり、

TV宇宙中継始1963 = 60歳 : ワシントンの日米文化教育会議に出席、途中で高血圧のために倒れ、帰国。ガンが脳に転移して再発、

東京初光'ッ 1964 = 61歳 : 「わが生死観 生命飢餓状態に身を置いて」が最後の論文となり、_わずか3カ月で、没した。

4年後に、「死を見つめる心 ガンとたたかった十年間」が出版され、毎日出版文化賞受賞。